

企業名： 東亜建設工業

レポート名： コーポレートレポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

コーポレートレポートを読むことで、この会社が目指している将来の姿が十分に理解できた。東亜建設工業が目指しているのは、「青い海と青い空、そして緑あふれる街」、「安全・安心な街、そして快適な都市環境を整備」を提供し、この取り組みを通して、「社会から信頼され、社員からも愛される企業」になることである。また、「企業価値の向上」という言葉がレポートのいたるところに使われており、将来の企業価値をあげることも目標としていることもわかる。

この会社が目指しているものが理解しやすい理由は二つある。

- ① 一つ目は、レポートの構成が分かりやすいからである。社長からのコメントの後に各部署で取り組んでいる事業や目標とする姿などが細かく記されている。写真が多く使われており、色の配色や図なども見る人が理解しやすいように工夫が施されていることがわかる。
- ② 二つ目は、具体的な実現に対する取り組みを提示してくれているからである。社長からのメッセージのなかでも、「現場と本社との連携強化」「経営企画本部内に DX 推進部を新設」とあったり、各部署の事業説明においても具体的な取り組みを示してくれたりすることで企業の将来の姿を想像しやすいようになっている。また、実現するために努力していることがわかるようになっていて、会社への信頼感が増すようなレポートとなっている。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

この会社の現在の競争優位性についてはこのレポートからは読み取ることができなかった。「東亜らしい社会価値の創造」というように未来の価値についての話や、「東亜建設工業のあゆみ」で過去の栄光についての記述はあるが、競合相手に対する現在の東亜建設工業の競争優位性、強みは確認できなかった。全体的にこの報告書からは未来のなりたい企業像になるための取り組みを前面に押し出しているイメージをうけた。このレポートの末尾にかかっている、2016年に発生した一連の地盤改良工事における施行不良および虚偽報告の問題という不祥事の悪いイメージから抜け出すために、未来に向けた取り組みに重点をおいたレポートとなっているのかもしれない。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

東亜建設工業の現在の競争優位性を理解できなかつたため、現在の競争優位性の持続性はわからないといえる。ただし持続的な成長に関して東亜建設工業は、既存の事業を営みつつ価値創造を進めることで新しい領域も開拓していき事業拡大していく「両利きの経営」で持続的に成長していくと述べている。「価値創造ストーリーを回し、様々な環境課題、社会課題に対する取組みを深めれば、必ずそこで新たな課題に直面するでしょう。たとえ予想を超える難題であったとしても、臆することなくチャレンジすれば、それがそのまま事業領域の拡大につながり、その繰り返しは企業価値の向上につながります。」とレポートには載っている。新たなことに挑戦する姿勢を保つことによって今後もずっと成長し続ける会社であろうとしている。しかし、その姿勢が競合他社に対して競争優位性になるとはいえない。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私はこの会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思う。理由は三つあげることができる。

- ① 一つ目の理由は、企業の目指す未来像のスローガンが、先ほども述べたように「社会から信頼され、社員からも愛される企業」であることである。スローガン内に社員とあることから、社員のことを大切に考えてくれている会社であることがうかがえる。また、社員から愛されるということは、企業の社員に関する扱いを良くし、愛されるように努力していることが伝わってくる。コーポレートレポートには、東亜建設工業のあるべき姿を「人が集まる会社」と定め、「関わる人が幸せになる会社」「社員が幸福度高く働ける会社」の実現を目指し、従業員のエンゲージメントを高める施策を行っていると記載されている。このように、社員が幸せに働けるように取り組まれている会社は、安心して自分の力を養うことができると思える。
- ② 二つ目の理由は、社員の成長の機会を与えてくれる環境である。東亜建設工業では若手社員に対して、会社を担う責任感を育むため、経営に対して様々な提案をしてもらう機会を設けている、とレポートには書いてある。また、「トレーニー研修」といい、若手社員を海外現場に3か月間派遣する OJT 研修を行い、グローバル人材の育成に取り組んでいることから、社員が自身の価値を向上させる手助けがなされていることがわかる。
- ③ 三つ目の理由は女性も働きやすい点である。東亜建設工業は、女性社員や外国籍社員などの多様な人材が生き活きと働きやすい職場を目指している。2021年に女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定企業（2段階目）」の認定をうけており、国からも認められた職場となっている。取り組みとして女性社員の配置が少ない現場を中心に、女性が利用できる制度や、配属に際しての設備導入などについてまとめたサポートブックの配布などがある。また、TOA けんせつ小町ワーキンググループという女性社員同士の交

流・意見集約の場を年に二回開催している。私自身、女性であるため女性にも働きやすいかどうかは自分が会社で人的資本の価値向上を達成できるかどうかを判断する大事な指標であると思う。

このように、社員から愛される企業になることを目標とした社風であり、成長の機会が与えられており、女性や外国籍社員など様々な人が働きやすいように整備された会社であることが分かるため、私はこの会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思う。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

東亜建設工業のコーポレートレポートの良かった点は、非常に見る人に配慮した資料となっており、レポートの構成が分かりやすく、図や写真を使って読みやすくしている点である。

反対に改善余地は、先ほども述べたように、現在のこの会社の競争優位性をもっと分かりやすいように書くべきだと思う。このコーポレートレポートは企業のこれまでの実績ややりたい将来像に向けた取り組みに焦点を置いており、現在の東亜建設工業が市場においてどのような位置づけなのかを示した部分が少ないと感じた。